



■■ 令和2年2月18日（月） ■■

正しく知って3Rを実践、ごみ問題研修会

2月18日、栄東連合町内会衛生部が主催するごみ問題研修会が日の丸会館で開催されました。

まず、「ごみの正しい分け方・出し方や減らし方」と題して東清掃事務所の村上英一郎所長に講演いただきました。参加者は、町内会長やごみ問題担当の役員など30名で地域ではごみ問題には詳しい方々ですが、分別は意外に間違ふこともあります。ごみ分別のマニュアルや気軽に清掃事務所を活用しましょうというアドバイスも。

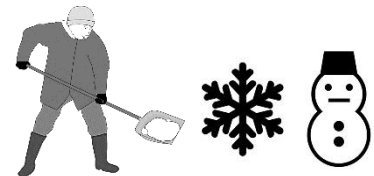
また、食べられるのに捨てられる食品を減らすリデュース、使えるものや古着を回収してのリユース、小型家電などの回収による希少金属等のリサイクルなど3Rの重要性を強調されていました。

講演終了後は、参加者から「カラス被害で困っている」「ごみ分別については繰り返しPRを」「共同住宅のマナーの悪さの啓発を」などの質問や要望が出されていました。町内会にとってごみ問題は、最も身近な事項です。ごみの分け方、出し方、減らし方を学び、実践することの大切さを再認識させられた研修会でした。



■■ 令和2年2月18日（月） ■■

除雪のコツ教えます。除雪教室 2020



降雪地帯の札幌で誰もが当たり前に作業している除雪に関してユニークな講習会が2月18日、栄東連合町内会の主催で開催されました。

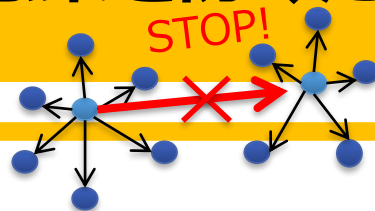
まず、夕張市で除雪ボランティアをされた講師から、「除雪の始まりはまず準備体操から。身体を伸ばすことで体を痛めることを防ぐことができる」、「除雪の神髄は、前かがみで雪を持ち上げない。身体を上下して雪を持ち上げ、身体をひねりすぎない。身体と平行にして腕だけを振り子のようにして投げる」などのアドバイスがありました。

除雪は嫌な作業でつい急ぎがちで力みすぎる傾向があります。無理な体勢は、負担をかけて腰や肩、腕を痛める可能性もあります。簡単ですが、意外に実践できていないアドバイスに会場の参加者は大きく頷いていました。

後半は除雪機の使い方を学んでから、日の丸会館周辺の歩道で除雪機を動かす実習です。初めて操作で、皆さんおっかなびっくりで除雪機を体験していました。この講習は、安全に除雪機を使って事故を防ごうというのが目的でしたが、その利便性に興味をもった受講者も。毎年、除雪には慣れている札幌市民ですが、意外と知らないことを多い除雪教室でした。



新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために



感染拡大を防ぐために

国内では、散発的に小規模に複数の患者が発生している例がみられます。この段階では、濃厚接触者を中心に感染経路を追跡調査することにより感染拡大を防ぎます。

今重要なのは、今後の国内での感染の拡大を最小限に抑えるため、

小規模な患者の集団（クラスター）が次の集団を生み出すことの防止です。

<感染経路の特徴>

※「小規模患者クラスター」とは
感染経路が追えている数人から数十人規模の患者の集団のことです。

- ◆ これまでに国内で感染が明らかになった方のうちの8割の方は、他の人に感染させていません。
- ◆ 一方、**スポーツジム、屋形船、ビュッフェスタイルの会食、雀荘、スキーのゲストハウス、密閉された仮設テント**などでは、一人の感染者が複数に感染させた事例が報告されています。

このように、集団感染の共通点は、特に、

「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。

国民の皆さまへのお願い

- ◇ **換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。**
- ◇ イベントを開催する方々は、風通しの悪い空間や、人が至近距離で会話する環境は、感染リスクが高いことから、その規模の大小にかかわらず、その開催の必要性について検討するとともに、開催する場合には、**風通しの悪い空間をなるべく作らない**など、イベントの実施方法を工夫してください。

これらの知見は、今後の疫学情報や研究により変わる可能性があります。現時点で最善と考えられる注意事項をまとめたものです。

厚生労働省では、クラスターが発生した自治体と連携して、クラスター発生の早期探知、専門家チームの派遣、データの収集分析と対応策の検討などを行っていくため、国内の感染症の専門家で構成される「クラスター対策班」を設置し、各地の支援に取り組んでいます。